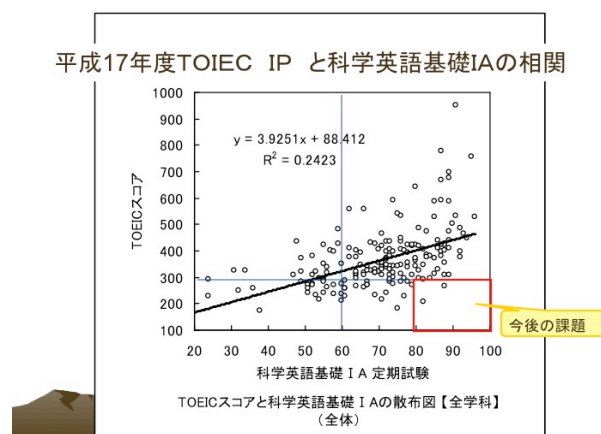


参考資料

【資料 01】豊田高専の英語教育プログラム カリキュラム体系 平成 18 年度版

学年	2 年	3 年	5 年	専攻科 2 年	(出典：国立高専機構 平成 18・19 年度教育方法改善共同プロジェクト「高専における国際性豊かな人材育成教育の現状と課題」最終報告書 p95, 神谷「数値目標に基づく英語教育カイゼン」資料 2)
定着度指標	ACE で測定	TOEIC 300 点	TOEIC 350 点	TOEIC 400 点	
達成度目標	多読語数	8 万語	12 万語	4 年で 16 万語	
	学習語彙	1,800 語	2,700 語	4 年で 4,200 語	
	聴取速度	100-120 語/分	120-140 語/分	160-180 語/分	

【資料 02】TOEIC で設定した定着度の検証例 (TOEIC 得点と科目成績の相関)



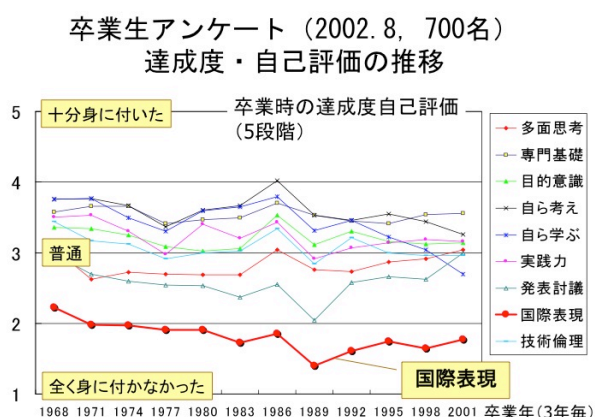
「ですから私たちは、先ず、外部試験 TOEIC と、3 年生英語科目の関連を考えてみました。具体的にシラバスに明記しました。TOEIC300 点は、第 3 学年定期試験の C 評価、60 点に相当する。…すなわち 60 点以上取れば、TOEIC もおそらく受験すれば、300 点は取れるであろうということを想定するものです。」

(出典：資料 01 p85, 神谷「数値目標に基づく英語教育カイゼン」)

【資料 03】「WWW ベースの工業英単語自習システムを、専門科目の講義に組み込んだ継続的な工業英単語教育に利用すべく、1 年間運用した。」(出典：西澤他「自習システムを用いた工業英単語教育」高専教育 23 号 p248, 2000) しかし「語彙習得に効果が限定され、…、学生の英語運用能力を満足すべき水準まで改善することは難しいと判断した。」(出典：西澤他「英文多読による工学系学生の英語運用能力改善」電気学会論文誌 A vol. 126, no. 7, p556, 2006)

【資料 04】「過去 2 年間実施してきた「音読・筆写」の効果と限界を報告した。1 年の自習支援 (音読筆写 101 日+多読 6 万語) により、ACE のクラス平均点が有意に高くなる等、読み、聞きの英語運用能力を向上させる効果が認められた。しかしながら、音読筆写による自習支援は、2 年目に入ると脱落者が増加する等、運用が難しいことも分かった。」(出典：西澤他「インプット重視の英語自習支援、その効果と限界」高専教育 28 号 pp523-528, 2005)

【資料 05】豊田高専歴代卒業生による、卒業時の教育目標達成度自己評価結果



「創立時 (1968 年卒業) から卒業直後 (2002 年卒業) までの全卒業生から無作為抽出した 3000 名にアンケート用紙を郵送、690 名から回答を得た。「国際社会で通用する表現能力」は、全年代を通じて評価点が低く、また他の項目に比した低評価が際立っており、本校の教育改善における最大の課題と言える。」

(出典：西澤他「卒業生アンケートによる教育評価と教育改善への活用」高専教育 27 号, p556, 2004)

【資料 06】「発信型国際技術者育成のための工学英語教育」で平成 17 年度現代 GP に採択された名古屋工業大学においても、新入生の 38%を占める「TOEIC400 点未満の学生 (350 名) の場合、

英語プレゼンテーションを実施する以前に、まずは、英語の基礎力訓練が必要。しかしそれを行うだけの時間上の余裕がない。」として、今後の課題の筆頭に挙げている。

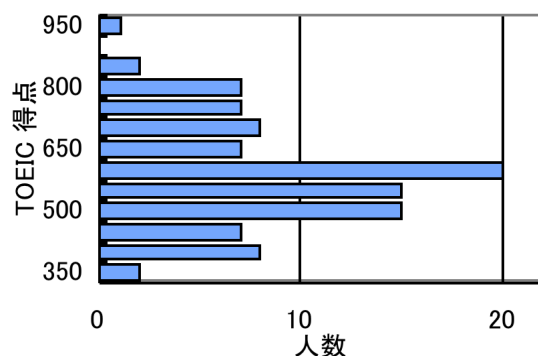
(出典：資料 01 p34, 大貫「名古屋工業大学 EGST 教育の取組の成果と今後の課題について」)

【資料 07】奈良高専の TOEIC 平均点推移 (外国人留学生を除く)

得点 (人数)	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度
3 年生	299.7 (210)	292.8 (203)	312.6 (198)	307.9 (203)
4 年生		348.2 (204)	321.9 (189)	325.9 (192)
5 年生			383.5 (185)	347.3 (182)

(出典：資料 01 p113, 金澤「奈良高専での TOEIC 対策を利用した英語コミュニケーションスキルの強化」)

【資料 08】英語圏留学経験者の TOEIC 得点分布 (2005～2009 年度本科 3 年, 99 名, 平均 614 点)



英語圏留学経験者の TOEIC 得点は、ばらつきが大きいものの、400 点未満と 850 点以上は少なく、また、500～650 点にピークがあり、高専英語教員が卒業生に期待する英語運用能力水準をほぼ満たしている。

(出典：西澤一「豊田高専英語教育の特長—英語体験としての交換留学と多読授業」、日本高専学会誌 15-2, pp.10, 2010)

【資料 09】「実践を通じた英語教育の取り組みとしてもうひとつ特筆すべき事例は、豊田高専を中心にさまざまな高専、大学に広がりつつある「多読」である。SFM が発話を主体にしているのに対し、多読は読書を主体にするという違いはあれ、いずれも学習者の自発性や興味を学習の動機づけにつなげるという点では共通している。」 (出典：資料 01 p257, 第 2 部 国際性豊かな人材得育成教育の現状・課題と提言)

【資料 10】「導入後に実感した多読授業の利点は、学習の楽しさである。中学校で 3 年間の英語教育を受けた者であれば、たとえ英語に苦手意識があっても、楽しみながら読むことができる。特に、ORT は、挿絵が高品質で、...、学生に好評である。」

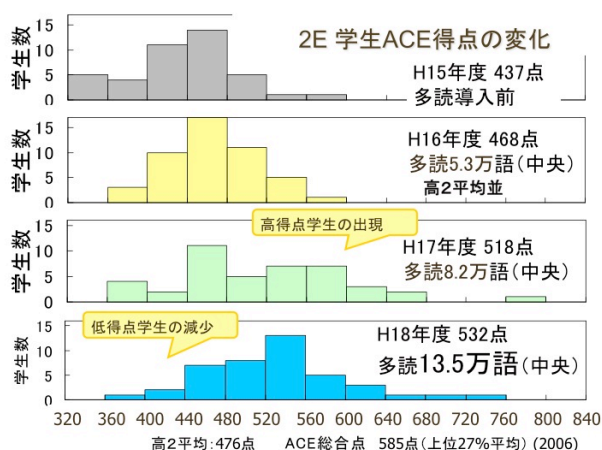
(出典：吉岡他「理系クラスでの多読授業」英語教育 2 月号 pp18-20, 2004)

【資料 11】電気・電子システム工学科多読授業の達成度目標 (H18 年度)

学年	2 年	3 年	5 年	専攻科 2 年
達成度目標				
TOEIC 水準	340 点	370 点	430 点	450 点
Reading 水準	YL1.0	YL1.2	YL2.2	YL2.6
Reading 英文長	3,000 語	4,500 語	4,500 語	6,000 語

(出典：資料 01 p92, 神谷「数値目標に基づく英語教育カイゼン」資料 1)

【資料 12】10 万語前後の多読による ACE 得点の変化



「よりやさしい試験である ACE で測定すると、多読の効果は早期に観測できる。E 科 2 年生の ACE 得点経年変化を見ると、2005～2006 年度に 10 万語程度 (中央値) の多読により、高得点学生が出現、低得点学生数が減少し、分布のピークが高得点側にシフトしている。これら得点上昇は、Reading + Listening 部門の得点上昇であり、語彙、文法部門の得点は伸びていない。」

(出典：資料 01 p85, 93, 神谷「数値目標に基づく英語教育カイゼン」)

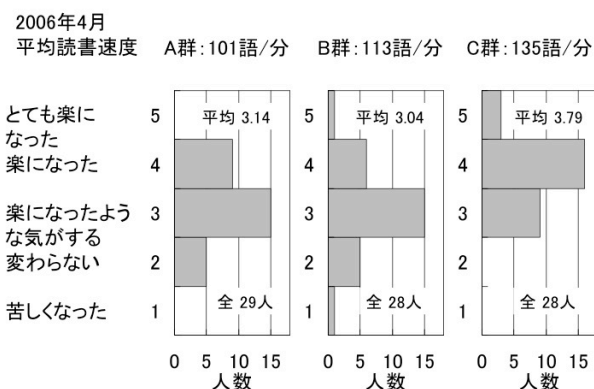
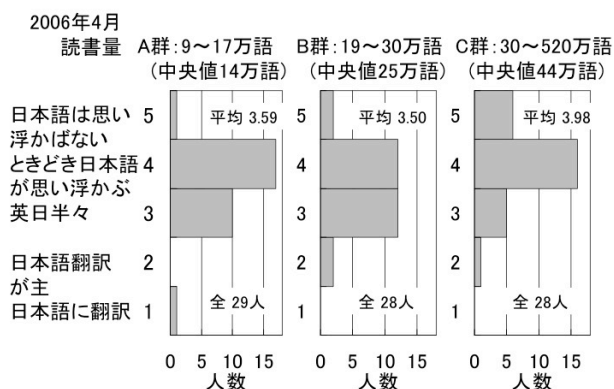
【資料 13】「多読の成果が ACE や TOEIC のような英語の実力を測定する外部試験のスコアに表れるのは最低 10 万語以上からと言ってよい。数万語の差では、英語力の伸長を確認することは難しく、学習者自身も英語の上達が実感できその成果が試験の得点にも反映されるようになるには、20 万～30 万語程度の読書量は必要である。」（出典：深田他「高専生英語力向上への道：英文多読指導の効果」全国高専英語教育学会研究論集 27 号，2008）

【資料 14】「100 万語多読では、…主として YL3.0 以下の英文図書で、100 万語読むことを提案しており、EPER とは使用する図書が異なることが分る。例えば，“The Woman in Black”…は、EPER では、D レベルで、TOEIC300 点水準の学生（多くの高専生の英文多読開始時）に適切な本と位置づけられるが、100 万語多読では、100 万語読んだ（多読授業を数年間受講し、TOEIC450 点に達した）学生への推薦図書となり、多読授業 1 年目の学生に薦められることはない。EPER に代表される英文多読が日本の教育現場で受け入れられなかったとすれば、導入時の英文図書の難易度が高すぎたことが、要因の一つとして考えられる。」（出典：資料 03 p557）

【資料 15】「30 万語以上読んだ学生（下図 C 群）は、読書速度も速く、読書時に日本語の介在が少ないと推定され、「日本語があまり思い浮かばない」、「やさしい英文が楽に読める」と自己評価している。多読授業は複数年継続しても脱落者は少ない。」

「英文を読むとき、どの程度、日本語が思い浮かびますか？」

「以前に比べて、英文を読むことが楽になりましたか？」

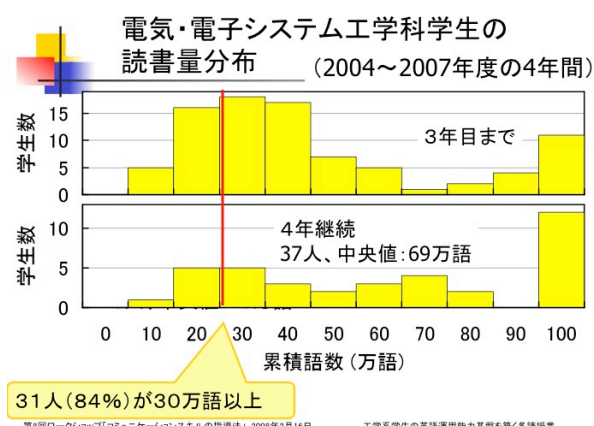


読書量と意味処理言語の関係

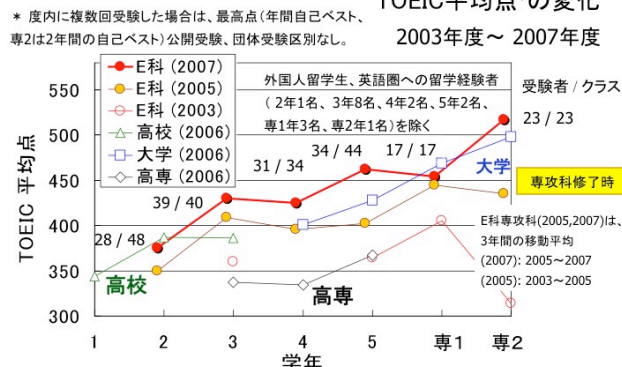
読書量と実効感の関係

（出典：西澤他「苦手意識を自信に変える、英語多読授業の効果」高専教育 30 号，p443, 444, 2007）

【資料 16】多読授業を 4 年間継続した学生（5 年生）は、累積読書量の中央値が 69 万語に達し、TOEIC（年間自己ベスト）得点も平均 364 点（2003 年度）から 465 点に上昇した



多読導入による電気・電子システム工学科学生の TOEIC 平均点*の変化

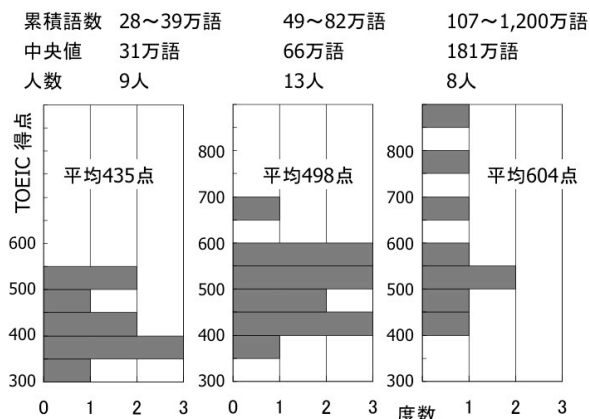


多読授業継続 4 年後の読書量分布

H19 年度の学年別 TOEIC 平均点

（出典：日本工学教育協会第 8 回ワークショップ「コミュニケーションスキルの指導法」講演資料，2008）

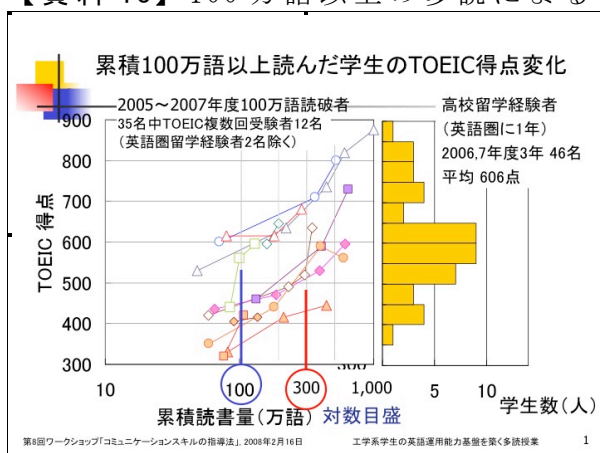
【資料 17】 累積語数別の TOEIC 得点分布



「4 年間継続した受講生を累積読書量で 3 群に分け、TOEIC 得点（年間自己ベスト）分布を比較した。読書量 49～82 万語の群では、12 / 13 人が 400 点以上であり、読書量 107～1200 万語の群では TOEIC 平均が 604 点であった。この水準は、英語圏に 10 ヶ月滞在した本校 3 年生（2006, 7 年度に帰国した 46 名）の平均 606 点と同水準である。」

（出典：H20 年度日本工学教育協会第 56 回年次大会採択原稿 西澤他「英語運用能力に与える英文読書量の影響」予稿，2008）

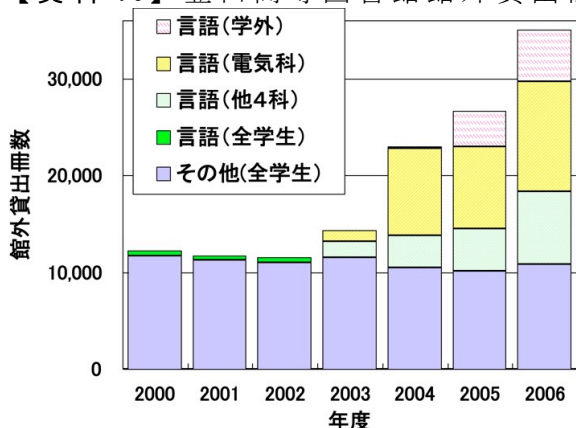
【資料 18】 100 万語以上の多読による TOEIC 得点の変化



「1 年間の英語圏への留学経験者の TOEIC 得点は、平均 606 点である。多読 100 万語突破者の TOEIC 得点変化を見ると、英語の得意な学生では 100 万語で、また、苦手な学生でも約 300 万語で、この水準に達しており、数百万語の多読は、留学に匹敵する効果を持つ可能性がある。」

（出展：資料 16）

【資料 19】 豊田高専図書館館外貸出冊数の経年変化



「英語多読が学内の文化として浸透しつつある。これらの結果、2006 年度の館外貸出冊数は多読導入前の 2002 年度の約 3 倍となった。...学外利用者の館外貸出は「言語」に集中しており、2006 年度には学外者による「言語」館外貸出冊数が 5,299 冊と全貸出冊数の 15% を占めた（図 4）。

（出展：西澤他「英語多読を通じた図書館の授業支援と地域貢献」高専教育 31 号，pp 413, 2008）

【資料 20】 多読用図書を所蔵する愛知県の図書館

図書館名	ORT	GR	他
愛知県		345	絵本 6,500
名古屋大学		705	
中京大学		1,731	
一宮市豊島	232	749	LLL:90, ICR:248, 他
豊田市中心	353	398	他
豊橋市中心	176	47	ICR:100, 絵本 6,000
蒲郡市	317	869	他
小牧市	257	585	PYR:125, SIR: 16
田原市中心		34	他

ORT: Oxford Reading Tree, GR: (Graded Readers)

（出典：多聴多読マガジン vol.8, pp132, 2008）

申請者メモ：

- 1) ORT は豊田高専他の多読授業で用いられる、最もやさしい多読用図書
- 2) GR は英語学習者向けに語彙・文法を制限して書かれたレベル別読本

【資料 21】多読用図書を所蔵する高専図書館

高専名	ORT	GR	他
釧路高専			OFF:20
茨城高専	400	470	FRL:80, 他 200
東京高専	700	1,320	LLL:320, ICR260, 他
長野高専	10	482	ICR:130, 他
福井高専	151	104	
豊田高専	1,702	2,098	全 11,500
奈良高専		18	他 55
米子高専		165	他 50
詫間電波		188	
新居浜高専	465	525	
弓削商船		223	OFF 全
大分高専	81	725	LLL:80
沖縄高専	67	129	マンガ 800

OFF: Oxford Fact Files, FRL: Foundations Reading Library

(出典: 多読多読マガジン vol.8, pp128-135, 2008)

申請者メモ:

- 1) 沖縄高専は、数千冊の多読用図書の大部分を図書館外で管理している
- 2) 左記以外に、旭川高専、苫小牧高専、函館高専、沼津高専、呉高専、都城高専、および、豊橋技術科学大学が、多読授業を実践している

【資料 22】多読用図書約 12,000 冊を分類、体系化し、各図書の英文の長さ: 語数と、独自に設定した英文の読みやすさレベル (YL) を表示している。

(出典: 古川他「めざせ! 1000 万語 英語多読完全ガイドブック 改訂第 3 版」コスモピア, 2010)

【資料 23】TOEIC IP テストの学年別スコアと受験者数

年度	高専 3 年	高専 5 年	高専専 1	高校 3 年	大学 3 年	大 3 (理工農)	大 3 (英語)
2006	337 (2,274)	367 (3,168)		386 (11,513)	469 (59,474)		
2007	346 (2,260)	363 (3,212)	371 (1,202)	394 (10,505)	475 (60,965)	397 (13,704)	549 (15,017)
2008	336 (2,524)	357 (3,560)	366 (1,222)	381 (11,207)	472 (61,513)	395 (13,806)	541 (16,039)
2009	331 (3,046)	365 (3,469)	381 (1,245)	402 (14,045)	484 (59,176)	410 (13,162)	547 (15,892)

(出典: TOEIC テスト DATA&ANALYSIS 2006~2009, 2007~2010)

【資料 24】企業における英語研修の変遷 / TOEIC スコアの期待値と実際値

(平均±標準偏差)	新入社員	海外部門	技術部門
期待値	547±115	737±85	607±110
実際値	457±181	679±184	436±156

(出典: ETS「企業・学校における英語活用調査 - 2009 年」, p.5, 2009)

【資料 25】我々の実践でも、学生に (5 年間の) 前半 3 年間に読まれた英文レベルは YL0.0~2.5 である。特に、授業初年度に YL1.0 未満の英文を読むことは、日本語に翻訳しながら読む読み方を英文から直接意味をくみ取る多読の読み方に転換するためにも重要である。やさしい英文図書をスキップして、YL2.0 程度の図書から読み始めると、いつまで経っても日本語に翻訳するクセが抜けず、かえって運用能力の向上が遅れることが多い。

(出典: 西澤他「工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業」、工学教育 58-3, p.16, 2010)

【資料 26】主要 5 GR (Cambridge, Penguin/Longman, Oxford, Macmillan, Black Cat) のうち、4 シリーズについて推奨 TOEIC 得点を表示している (本文、表 8 の明朝体部分)。

(出典: Mateer, B. Graded Reader Equivalency Chart, Extensive Reading in Japan, 2-1, p.23, 2009)

【資料 27】 EPER levels for language learner literature in English

EPER level	Average vocabulary	Student level	Cambridge	TOFEL	TOEIC	Transition to L1 books
G	300	Starter				
F	500	Beginner				
E	800	Elementary		350	150	
D	1,200	Low Intermediate		400	300	Ages 10-12
C	1,600	Intermediate		450	450	
B	1,900	High Intermediate	FCE*	480	530	Ages 13-15
A	2,200	Advanced	CAE*	520	650	
X	3,000	Bridge	CPE*	550	730	

*FCE = First Certificate in English; CAE = Certificate in Advanced English; CPE = Certificate of Proficiency in English

(出典: Day, R.R. & Damford, J., Extensive reading in the second language classroom. Cambridge: Cambridge University Press, p.173, 1998)

【資料 28】 「めざせ 100 万語！」という標語のもとに、中学 1 年生以上の英語の知識がある人なら、たぶんだれでもペーパーバックを楽しめるようになると考えられる方法を紹介します。

(出典: 酒井邦秀

「快読 100 万語！ペーパーバックへの道」東京：筑摩書房、p.10 および全文、2002)

【資料 29】 中学校 2 年生以上の英語力があれば、後で触れる「多読三原則」にしたがって読むことによって、多くの人が無理なく分速 100 語以上で英語の読書ができるようになるからです。

(出典: 古川昭夫・伊藤晶子

「辞書を捨てれば英語が読める 100 万語多読入門」東京：コスモピア、p.17 他、2005)

【資料 30】例えば、” The Woman in Black” (MMR3: Macmillan Readers Elementary, YL3.0, 12,800 語)は、EPER では、D レベルで、TOEIC350 点水準の学生（多くの高専生の英文多読開始時）に適切な本と位置づけられるが、100 万語多読では、100 万語読んだ（多読授業を数年間受講し、TOEIC450 点に達した）学生への推薦図書となり、多読授業 1 年目の学生に薦められることはない。EPER に代表される英文多読が日本の教育現場に受け入れられなかったとすれば、導入時の英文図書の難易度が高すぎたことが、要因の一つとして考えられる。

(出典: 西澤他「英文多読

による工学系学生の英語運用能力改善」電気学会論文誌 A vol.126, no.7, p556, 2006)

【資料 31】 For example, we found in the first year of our trial ER program that Penguin Readers *Easystarts* (YL 0.8) were not easy enough for some of our fifth grade students. In our ER program, we suggest our students read about 1,000,000 words, or more, before they start to read *Macmillan Readers Level 3* (YL 2.8), which is set at EPER level D (lower intermediate) and is recommended for learners with a TOEIC score of 300. Our experience suggests that Japanese EFL learners with a TOEIC score of 300 are not able to read a book at this level without concurrent translation. The easy-to-read books for these students are the first seven stages of *Oxford Reading Tree* (YL 0.0-0.7), or the first three levels of Cengage’s *Foundations Reading Library* (YL 0.6-0.8).

(出典: Nishizawa, H., Yoshioka, T., & Fukada, M., The impact of a 4-year extensive reading program. In A. M. Stoke (Ed.), *JALT2009 Conference Proceedings*, pp.632-640, Tokyo:JALT, 2010)

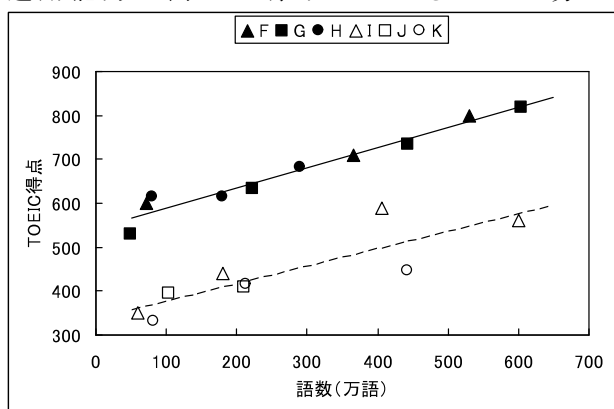
【資料 32】 当研究の大学生が絵本を好んで読んでいるところを見ると、大学生であるから絵本はふさわしくないという事はなく、まずは読む気を起こさせるものであれば、それは立派な多読教材になる。絵本で英語に慣れてくれば徐々に字の多い本に移行していくので、多読導入時に絵本を利用するのは効果的である。

(出典: 高瀬敦子、

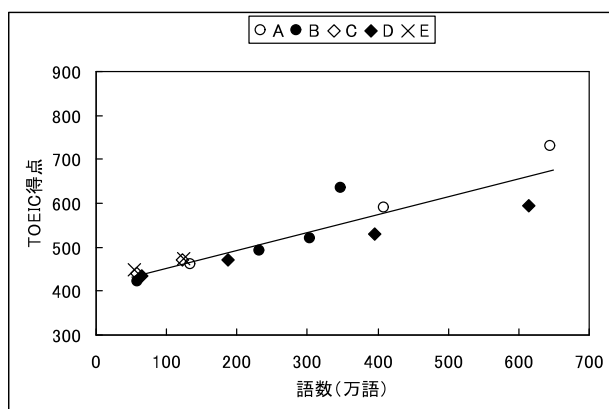
大学生の効果的多読指導法「関西大学外国語教育フォーラム」第 6 号, pp.1-13, 2007)

【資料 33】筆者等は、TOEIC 得点 350 点の高専生が得点を 500 点まで上昇させるのに必要な英語体験量を 600 時間（留学期間 6 ヶ月）と試算した（資料 25）。これは英語圏に滞在している学生が 1 日 5 時間の英語体験をしていると仮定し、10 ヶ月、1000 時間の体験で TOEIC 得点を 350 点から 605 点へ、255 点上昇させているとして比例計算により算出したものである。図-1 の平均 614 点を用いて計算し直すと、必要な英語体験量は 568 時間になる。（出典: 西澤一「豊田高専英語教育の特長—英語体験としての交換留学と多読授業」、日本高専学会誌 15-2, p.11, 2010)

【資料 34】初回受験時の TOEIC 得点に関わらず（多読授業以前における英語に対する苦手意識の程度によらず），100 万語の読書量が TOEIC 得点に換算して 40～50 点程度の英語運用能力の向上に寄与していることが分かる。



(b) 初回受験時の得点が 300 点台の学生
 $y = 0.46x + 544$ ($R = 0.98$)
 および 500 点以上の学生
 $y = 0.40x + 335$ ($R = 0.85$)



(a) 初回受験時の得点が 400 点台の学生
 $y = 0.41x + 412$ ($R = 0.91$)

（出典：伊藤和晃、長岡美晴「英語多読における多読語数と英語運用能力向上効果との関係」、H20 年度高専教育講演論文集、pp.195-196, 2008）

【資料 35】交換留学のように 10 ヶ月の留学は，その成果を TOEIC で測定可能であるが，3 ヶ月未満の短期留学（や国際交流活動）による英語運用能力向上を測定することは難しい．体験量が少ないうえに，前述した 3 ヶ月の壁が障害となるからである．この影響を廃し，または，緩和するためには，留学前の英語体験が有効と考えられる．留学前の学生は十分動機付けされているので，適切な学習法を提示できれば平均的な学生よりも積極的に取り組むと期待できる．一日 1 時間×半年で達成可能な百万語以上の多読（多聴）活動を事前学習として提案したい．また，留学後の英語体験としても，多読（多聴）活動が有益だと筆者等は考えている．豊田高専の実践によると，TOEIC 得点で 800 点未満の学生であれば，百万語あたり約 40 点の得点上昇を期待できる（資料 34）．例えば，帰国時に 600 点だった学生の場合，2～4 年間で 500 万語の多読を行えば，卒業（修了）までに無理なく 800 点到達を見込むことができよう．（出典：資料 33 p.11）

発表リスト

取組後

〔雑誌論文〕

- 1) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃 (2010). 長期継続多読授業の効果、日本多読学会紀要 4, pp.2-14.
- 2) Nishizawa, H., Yoshioka T., Fukada, M. (2010). The impact of a 4-year extensive reading program. In A. M. Stoke (Ed.), *JALT2009 Conference Proceedings*. Tokyo: JALT.
- 3) 西澤一 (2010). 豊田高専英語教育の特長—英語体験としての交換留学と多読授業、日本高専学会誌 15-2, pp.9-14.
- 4) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃 (2010). 工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業、工学教育 58-3, pp.12-17.
- 5) Takase, A., Nishizawa, H. (2010). Two critical tips to motivate EFL learners to read extensively, *Proceedings of the BAAL Annual Conference 2009*, pp.135-138.
- 6) 深田桃代、長岡美晴 (2009). 豊田高専における英語多読・多聴授業の全学展開—実践報告：第1報、豊田高専研究紀要 42, pp. 207-216.
- 7) 深田桃代 (2009). 自律的英文多読の継続を支える要因—100 万語達成者へのアンケート分析をもとに、中部地区英語教育学会紀要 38, pp. 205-212.
- 8) 吉岡貴芳、深田桃代 (2009). 「多読」で伸ばす英語力、文部科学教育通信 221, pp. 24-25.
- 9) 西澤一、吉岡貴芳 (2008). 図書館で行う多読授業—教職員・学生・地域の共学環境を目指して、英語教育 57-10, pp. 25-27.

〔学会発表・講演〕

- 1) Yoshioka, T., Examining Critical Factors of Extensive Reading in an EFL Setting, TESOL's 45th Annual Convention and Exhibit (2010.3.19) New Orleans, USA.
- 2) Nishizawa, H., Three critical factors of a successful ER program, ERJ seminar 2011 (2011.2.13) Okayama University.
- 3) 西澤一、長期継続多読授業実践から分かったこと、日本多読学会関西多読セミナー (2011.2.5) 近畿大学.
- 4) 上野翔太、吉岡貴芳、伊藤和晃、西澤一、英語多読支援システムtadoku naviにおける図書自動推薦のための協調フィルタリング実装、計測自動制御学会中部支部教育工学研究会 (2010.12.11) 名城大学.
- 5) 弘山貞夫、豊田高専3年「多読授業」の実際と課題：西澤一、多読・多聴による英語教育改善の全学展開報告、教育 GP「多読・多聴による英語教育改善の全学展開」最終報告会&外部評価会、多読授業研究会 (2010.12.10&11) 豊田高専.
- 6) Nishizawa, H., Yoshioka T., Effectiveness of a long-term extensive reading program: a case study, 43rd Annual Meeting of the British Association for Applied Linguistics (2010.9.9) University of Aberdeen, UK.
- 7) 西澤一、長期継続多読授業の効果と課題、SPICE2010 (2010.11.24) 富山高専.
- 8) 伊藤和晃、吉岡貴芳、西澤一、英語多読における読書量と英語運用能力との関係、高専機構 H22 年度教員教育研究集会 (2010.8.27) 長岡技術科学大学.
- 9) 西澤一、英語多読・多聴による英語教育改善の効果と展望、高専教育フォーラム科目専攻別研究会 (一般科目の充実) (2010.8.28) 長岡技術科学大学.
- 10) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃、英語多読が効果を上げるしくみと多読授業の成否要因に関す

- る一考察、日本工学教育協会 H22 年度工学・工業教育研究講演会 (2010.8.21) 東北大学。
- 11) 西澤一、吉岡貴芳、6 年間継続多読授業の成果と課題、日本多読学会年会 (2010. 7.31) SEG.
 - 12) 吉岡貴芳、上野翔太、伊藤和晃、西澤一、協調フィルタリングによる学習用コンテンツ推薦と英語多読学習支援システム、教育システム情報学会東海支部研究会 (2010.7.10) 信州大学.
 - 13) 西澤一、工学系学生の苦手意識を克服し自律学習へ導く英語多読授業、情報教育研究所主催公開研究会「理工系英語教育を考える」 (2010.7.10) 早稲田大学.
 - 14) Nishizawa, H., Yoshioka, T., Designing a successful ER program for Japanese EFL learners, ERJ seminar 2010 (2010.7.4) Hokkai-gakuen University.
 - 15) Nishizawa, H., Yoshioka, T., A Japanese Style of Communicative Language Teaching Through Extensive Reading, TESOL's 44th Annual Convention and Exhibit (2010.3.25) Boston Convention Center, USA.
 - 16) Nishizawa, H., Impact of a long-term extensive reading program for reluctant EFL learners in Japanese college of technology, Children's Literature in Language Education (2010.2.27) Hildesheim University, Germany.
 - 17) 西澤一、多読授業の実際と工夫 (豊田高専での実践から)、日本多読学会関西多読新人セミナー (2010.2.20) 近畿大学.
 - 18) 西澤一、豊田高専での英語多読実践報告、新英語教育研究会東海ブロック冬の研究大会 (2009.12.26) 蒲郡荘.
 - 19) Nishizawa, H., Yoshioka, T., Fukada, M., Impact of Four-Year Long Extensive Reading Program, 35th Annual International Conference on Language Teaching and Learning (2009.11.21) Granship Shizuoka.
 - 20) Takase, A., Nishizawa, H., The Effectiveness of SSS and SSR to Motivate EFL Learners to Read Extensively, GP フォーラム&プレフォーラムセッション (2009.9.18) 県立島根大学浜田キャンパス.
 - 21) Nishizawa, H., Yoshioka, T., Fukada, M., An Integrated ER Program for Engineering Students, GP フォーラム&プレフォーラムセッション(2009.9.18) 県立島根大学浜田キャンパス.
 - 22) 岡本知也、吉岡貴芳、西澤一、ユーザの評価としてのレビューを用いた多読学習用図書推薦システム、H21 年度電気関係学会東海支部連合大会 (2009.9.10) 愛知工業大学.
 - 23) 西澤一、多読を活用した高専・技科大英語教育連続化の提案、日本高専学会第 15 回年会・講演会 (2009.8.30) 豊橋技術科学大学.
 - 24) Nishizawa, H. How ER Changed Reluctant Engineering Students into Confident Readers, 日本多読学会年会 (2009.8.22) 豊田高専.
 - 25) 西澤一、プロジェクトの背景、ねらいと手法：深田桃代、長岡美晴、プロジェクト 1 年目の状況報告：吉岡貴芳、図書推薦システムの紹介、教育 GP「多読・多聴による英語教育改善の全学展開」プロジェクト中間報告会 (2009.8.21) 豊田高専.
 - 26) 吉岡貴芳、深田桃代、豊田高専における英語多読による授業実践と英語運用能力改善の報告、高専機構 H21 年度教員教育研究集会 (2009.8.18) 豊田高専.
 - 27) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃、英語運用能力に与える英文読書量の影響(2)、日本工学教育協会 H21 年度工学・工業教育研究講演会 (2009.8.8) 名古屋大学.
 - 28) 深田桃代、自律的英文多読の継続を支える要因—100 万語達成者へのアンケート分析をもとに、中部地区英語教育学会長野大会 (2009.6.29) 清泉学院大学.
 - 29) Takase, A., Furukawa, A., Nishizawa, H., A Successful ER Program for Japanese Students of All Ages, TESOL's 43rd Annual Convention and Exhibit (2009.3.27) Colorado Convention Center, Denver, USA.
 - 30) 長岡美晴、深田桃代、豊田高専第 1 学年多読・多聴授業 1 年目の実践報告と課題：吉岡貴芳、英語多読授業を支援する図書推薦および読書記録システム：伊藤和晃、英語多読におけ

る多読語数と英語運用能力向上効果との関係：西澤一、H20 教育 GP 選定取組の概要と中間報告、多読・多聴授業研究会（2009.3.8）豊田高専。

〔図書〕

古川昭夫、西澤一（5 番目）、他 5 名、コスモピア、めざせ 1000 万語！英語多読完全ブックガイド（改訂第 3 版）、（2010）507.

〔その他〕 ホームページ

豊田高専ハイパーメディア研究室多読学習支援システム「tadoku navi」.

(<http://orchard.ee.toyota-ct.ac.jp/tadokunavi/>)

豊田高専電気・電子システム工学科 HP「多読で英語」

(http://www.ee.toyota-ct.ac.jp/er_english.php)

取組以前

〔雑誌論文〕

- 1) 深田桃代、西澤一、長岡美晴、吉岡貴芳（2008）. 高専生英語力向上への道—英語多読授業の効果（実践報告）、全国高専英語教育学会研究論集 27, pp. 1-8.
- 2) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃（2008）. 英語多読を通じた図書館の授業支援と地域貢献、高専教育 31, pp. 809-814.
- 3) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃（2008）. 3 年間の継続授業で明らかになった英語多読授業の効果と成功要因、工学教育 56-1, pp. 72-76.
- 4) 神谷他（2007）. 豊田高専における教育カイゼン-発信型カリキュラムの構築及び実践（多読・語彙・プレゼン指導の場合、全国高専英語教育学会研究論集 26, pp. 37-46.
- 5) 西澤一（2007）. 図書館の教育支援、地域貢献：豊田高専の英語多読を通して、東海地区大学図書館協議会誌 52, pp. 61-64.
- 6) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃（2007）. 苦手意識を自信に変える、英語多読授業の効果、高専教育 30, pp. 439-444.
- 7) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃（2006）. 英文多読による工学系学生の英語運用能力改善、電気学会論文誌 A 126-7, pp. 556-562.
- 8) 西澤一（2006）. 英語多読と図書館の役割、可能性、愛知図書館協会会報 178, pp. 5-6.
- 9) 西澤一（2006）. 苦手意識を克服し楽しく英語運用能力を向上させる英文多読授業、文部科学教育通信 145, pp. 28-29.
- 10) 長岡美晴、深田桃代（2005）. 豊田高専における英語多読指導の試み、全国高等専門学校英語教育学会研究論集 24, pp. 37-44.
- 11) 西澤一、吉岡貴芳、杉浦藤虎（2005）. インプット重視の英語自習支援、その効果と限界、高専教育 28, pp. 523-528.
- 12) 吉岡貴芳、西澤一（2004）. 理系クラスでの多読授業、英語教育 52-12, pp. 18-20.

〔学会発表〕

- 1) 吉岡貴芳、岡本和也、西澤一、工学系学生の英語力向上を目指した英文多読における自動図書推薦システムに関する研究、計測自動制御学会中部支部 146 回教育工学研究会・シンポジウム（2008.12）鈴鹿高専.
- 2) 宇留野光、吉岡貴芳、西澤一、英語多読用と書推薦システムに関する研究、計測自動制御学会中部支部 146 回教育工学研究会・シンポジウム（2008.12）鈴鹿高専.
- 3) 加藤和也、吉岡貴芳、西澤一、読書履歴からみる英文多読学習継続の要因分析、計

- 測自動制御学会中部支部 146 回教育工学研究会・シンポジウム(2008.12) 鈴鹿高専.
- 4) 吉岡貴芳、深田桃代、学校を越えて英語多読学習を支援する Web 読書記録手帳と自動図書推薦システムの開発、高専機構 H20 年度教員教育研究集会 (2008.8.18) 学術総合センター.
 - 5) 伊藤和晃、長岡美晴、英語多読における多読語数と英語運用能力向上効果の関係、高専機構 H20 年度教員教育研究集会 (2008.8.18) 学術総合センター.
 - 6) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃、深田桃代、長岡美晴、豊田高専における英語多読授業の成果と課題、日本多読学会第 7 回多読教育ワークショップ (2008. 8. 16) SEG.
 - 7) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃、英語運用能力に与える英文読書量の影響、日本工学教育協会 H20 年度工学・工業教育研究講演会 (2008.8.1) 神戸大学.
 - 8) 深田桃代、自律的英文多読の継続を支える要因-100 万語達成者へのアンケート分析をもとに、中部地区英語教育学会 (2008.6.29) 清泉女学院大学・清泉女学院短期大学.
 - 9) 吉岡貴芳、西澤一、伊藤和晃、深田桃代、長岡美晴、工学系学生に対する英文多読授業による英語運用能力改善の取り組み、日本教育工学会研究会 (2008.3.1) 名古屋大学.
 - 10) 深田桃代、西澤一、長岡桃代、吉岡貴芳、高専英語力向上への道—英語多読授業の効果 (実践報告)、全国高専英語教育学会第 31 回大会 (2007.9.2) 京大会館.
 - 11) 西澤一、吉岡貴芳、多読授業の実践報告 豊田高専、日本多読学会ワークショップ (2007.8.12) SEG.
 - 12) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃、英語多読を通じた図書館の授業支援と地域貢献、高専機構 H19 年度教員教育研究集会 (2007.8.9) 岐阜ソフトピアジャパン.
 - 13) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃、工学系学生の英語運用能力基盤を築く多読授業、日本工学教育協会 H19 年度工学・工業教育研究講演会 (2007.8.5) 日本大学理工学部.
 - 14) Furukawa, A., Nishizawa, H., Uruno, H., Yoshioka, T., SSS: An Online Community Which Supports Successful Extensive Reading for Learning English, The 6th IASTED International Conference on Web-based Education (2007.3.16) Chamonix, France.
 - 15) 西澤一、多読用図書の紹介、日本多読学会関西新人セミナー (2007.3.10) 神戸国際大学.
 - 16) 西澤一、図書館の教育支援、地域貢献：豊田高専の英語多読を通して、東海地区大学図書館協議会研修会 (2007.1.12) 岐阜県図書館.
 - 17) 西澤一、青木久美、TOEIC と多読、日本多読学会第 5 回多読ワークショップ (2006.8.27) 電気通信大学.
 - 18) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃、苦手意識を自信に変える、英語多読授業の効果、高専機構 H18 年度教員教育研究集会 (2006.8) 海外職業訓練協会 (千葉市).
 - 19) 西澤一、ある高専での多読授業の実践、日本多読学会「多読授業の実践報告」ワークショップ (2006.4.23) ウイルあいち.
 - 20) 吉岡貴芳、豊田高専の評価方法、日本多読学会「多読と評価」ワークショップ (2006.1.14) SEG.
 - 21) 西澤一、吉岡貴芳、伊藤和晃、英文多読による英語運用能力の改善、電気学会 FIE 研究会 (2005.6) 名古屋大学.
 - 22) 吉岡貴芳、西澤一、伊藤和晃、英文多読による読解力評価方法、高専機構 H17 年度教員教育研究集会 (2005.8) 伊勢市観光文化会館.
 - 23) 吉岡貴芳、西澤一、伊藤和晃、英文多読による個別自律学習の指導とその評価、高専機構 H16 年度教員教育研究集会 (2004.8) ホテルメトロポリタン長野.
 - 24) 吉岡貴芳、西澤一、英文多読による個別自律学習の指導、高専機構 H15 年度教員教育研究集会 (2003.8) ホテルグリーンパーク鈴鹿.

付録

付録 1 英語多読に関する Q&A

(高専教育フォーラム一般科目研究会 2010. 8. 28 長岡技術科学大学の配布資料より抜粋)

Q1. 多読で英語運用能力が向上するしくみは？

A1. 多読では、日本語に翻訳せずに英文を**英語のまま理解する**能力が育つものと考えている。内容理解に要する時間が短くなり、瞬時に反応できるので、リーディングだけでなくリスニングにも役立つ。これは、TOEIC、ACE で、リスニングとリーディング部門の得点が均等に伸びていることから分かる。実際のコミュニケーションで必要とされ、TOEIC でも重要となる反応速度を顕著に改善できることが、得点上昇に結びつくのであろう（所謂 TOEIC 受験対策授業は不要・不毛であり、可能な限り避けるべきと考えている）。

また、多読では、多くの学生が英文で書かれた物語の世界に入り込み、主人公とともに疑似体験する。これは、語彙と文法知識を用いて英文を分析する学習ではなく、（日本語の読書と同様の、やや気軽な）読書である。特に、物語自体を楽しめるようになると、楽しみや趣味としての活動が、運用能力向上につながり、自律的な読書が長期間継続しやすくなる。読書好きの小学生が、中学・高校の「国語」で成績がよくなるしくみと似ている。

Q2. 「読めるが話せない」日本人には、読書より会話を重視すべきでは？

A2. 「読めるが話せない」は広く伝播している誤解である。この主張の「読める」とは時間をかけて英文和訳し、訳文を日本語で理解することにて、（英文をそのまま）「読める」ことではない。実際、多読経験のない大学院生の多くは、本校多読授業 2 年目向けの英文（YL1.4^{*1}）を初見では読めない^{*2}し、英語圏からの帰国者（1 年間の留学後で日常会話はこなせる。TOEIC600 点くらい）も、最初は小学校高学年向けの児童小説（例えば、Harry Potter や Darren Shan）を読み通せない。少なくとも、日本人は「時間をかけて翻訳はできるが、読めない（聴けない）し、話せない」と表現しなおすべきである。日本人は「読めない（聴けない）から、話せない」可能性さえある。

さらに、Native 講師による少人数の「英会話」授業でも、学生が（日本語ではなく）英語で考える時間は、意外に短いとの懸念がある。日常生活で英語に触れない環境下での「英会話」授業では、「読めない」学生は講師の発言を聴き取れないままであり、発言しようにも英文が思い浮かばず、和文英訳を強いられる。学習動機付けにはなるかもしれないが、「英語で考える」から遠くなる。「読める」ようになった学生を対象にした方が、より有益な「英会話」授業になると期待できるであろう。

*1 YL（読みやすさレベル）：英語が 1 語も書かれていない絵本：YL0.0 から、難解な一般小説：YL9.9 まで。YL3.0 以下の本を中心に 100 万語読むのが理想的。「めざせ 1000 万語！英語多読完全ブックガイド（改訂第 3 版）」古川他、コスモビア p12（2010）。なお、多読 1 年目の標準的な学生（豊田高専）は、YL1.0 以下のやさしい本で 10 万語以上の英文を読む。

*2 シラバス設定水準の英文を毎分 100 語の読書速度で読みされる制限時間内に読ませ。英文を回収後に、全 10 問の質問に日本語で答えさせる。質問は、あらすじを問うものから、細かい描写内容を問うものまで。試験勉強は不要だが（できない）、普段読んでいない学生が合格点を取るのには難しい。詳しくは、Q&A. 8 を参照。

Q3. 文法学習は不要か？

A3. アウトプット（特に書くこと）には、文法学習が有効である。ただし、高校生以上を対象とするなら、文法学習のみを蓄積するより、多読を併用する方が楽しく学習でき、総合的な効果も高くなるであろう。また、豊富な読書経験後の文法学習は、解説内容を納得する学生が増え、より有意義ではなかろうか？

Q4. なぜ、複数年度継続授業にこだわるのか？

A4. E 科の6年間継続多読授業は、当初は外的要因で決まったものである。2003 年度当時、JABEE 審査に耐えうるプログラムを設計しようと、専攻科2年生修了要件（満たさないと卒業できない）を TOEIC450 点に設定したが、どんな教育手法であれ、この水準を1～2年の指導で達成できるとは思ってなかった。なるべく長期間、同一手法での指導が必要と考えていたので（、最終的に多読を選んだときも）、6年間継続授業だった。6年間継続の多読プログラムが完成した（プログラム一期生が2009年度に修了）今は、以下のように考えている。

平均的な高専生の英語運用能力を（TOEIC350 点未満から）TOEIC450 点以上まで引き上げるためには、累積約 100 万語の読書量が必要である。週 45 分 1 回の多読授業で1年間に学生が読む量は、順調なクラスで（課外の読書も含めて中央値で）20 万語程度なので、100 万語以上を読むためには5年必要ということになる。

本校では2008年度から、多読授業時間を増やした（1年目：週 45 分 1 回、2～3 年目：週 45 分 2 回）プログラムも走っているが、一期生の読書量は3年間の中央値で 75 万語程度となる見込みで、同じ 5 単位でも3年間では 100 万語に届かない。授業時間が2倍でも、課外の読書時間は2倍にならないことが、伸び悩みの理由である。さらに短期間での 100 万語達成を強要し、理解の浅い読書が続くのは、4乗の法則（古川仮説）^{*3}にもあるように、かえって逆効果（語数は伸びても英語力は伸びない）となる危険も大きく、教育機関として許す限り長期間継続のプログラムを設定するのがよいと考えている。

Q5. TOEIC を評価指標とする理由は？TOEIC では能動的な英語運用能力（話す、書く）は測定できず、技術者に必要な英語運用能力を測れないのでは？

A5. まず、TOEIC は（350 点くらいから）800 点くらいまでは、多読・多聴で育まれる（受動的な）英語運用能力を再現性よく測定できる評価指標だと、これまでの指導体験から判断している（ただし、受験対策を熱心にやらないことが前提）。本校学生の英語運用能力は、少数の例外を除けば 300～700 点に収まるので、TOEIC は高学年学生の英語運用能力測定指標として適している。もちろん、800 点以上の学生が増えたときには、高得点学生の測定指標を変更する必要がある出てくる。

次に、学習活動として能動的な活動（話す、書く）を行い、科学技術系の教材を使う場合でも、（TOEIC800 点くらい以下の）学生の英語運用能力測定は、受動的な能力の測定で間に合うと考えている。「聴き取りは苦手だけど流暢に話せる」、「読むことは苦手けれどもよい英文を書ける」ことは考えにくいからである。もちろん、そのような学生が出現してきた場合には、

*3 「英語多読法」古川昭夫、小学館 101 新書 p90 (2010)

評価法を見直す必要がある。

また、TOEIC 受験対策が熱心に行われている場合には、前提が覆るので、より受験対策をしにくい測定方法を検討する必要がある（本校では、今のところ必要なし）。

ただ、この質問がされること自体に、日本の英語教育が抱える問題が凝縮されていると感じる。と言うのは、これまで、多くの日本の英語教育の現場では、

- 1) 学生の受動的な英語運用能力（聴く、読む）が低いにもかかわらず、（無理して）能動的な英語運用活動（話す、書く）をさせ、
- 2) やさしい英文の読み、聴きができない学生に、（無理して）専門英語を含めた難しい英文を教材として使い、

これらに対応する成績評価をしようとしてきた、のではないだろうか。その結果、学生は、英文和訳、和文英訳に頼った学習活動、試験対策をし、「英語で考える」から遠ざかっていた。（原稿を暗記することで）口頭発表はできるが、質疑応答はお手上げだったり、総語数 6000 語の OBW2 を 1 時間で読み切れない（または、読み終わると疲れてしまう）のが典型的な現象である。また、進学、就職に TOEIC 得点が必要と言われると TOEIC 試験対策に走り、極端な場合ではたとえ 800 点取ったとしても受動的な運用能力すら身に付いておらず、TOEIC は信用できないということになる。高専在学中に TOEIC800 点程度の受動的な英語運用能力（聴く、読む）を身につけさせれば、能動的な英語運用能力（話す、書く）は卒業後に身につけることでよいと、我々は考えている。

Q6. 多読・多聴の長期継続のための動機付けはどうしているのか？

A6. 本文 5.3.4 動機付け を参照

Q7. 英語多読を実践してみて効果は上がらなかったが？

A7. 読書量が不足していたか、また、開始時の英文レベルが高すぎなかったかを確認しよう。

豊田高専の例では、多読の効果を ACE のクラス平均で確認するのに 10 万語、TOEIC のクラス平均で確認するのに 30 万語の読書量が必要だった（60、100 万語で効果は更に顕著）。10 万語に満たない平均読書量で効果を確認することは難しいのではないか。

また、英文レベルについては、我々も 2002 年度（多読実践の初年度）、開始英文レベルが高すぎる失敗をしている。本科 5 年生に語彙水準 200 語の PGR0 (YL0.8、表 3 の 2 段目) を与えて、平均的な学生から「難しい」と指摘され、急遽、YL0.3~0.8 の ORT3~8 (Oxford Reading Tree Stage3~8) で急場をしのいだ経験がある（2003 年度以降は、ほとんどの学生が ORT3 から読み始めており、「難しい」と言われることも少なくなった）。

Q8. 成績評価は、どうしているのか？

A8. 初見英文の読解試験^{*2}、これに外部試験（TOEIC、ACE）と読書記録を加えて、総合的に評価している（次頁の表 A）。シラバスに英語運用能力の学年別目標を TOEIC 得点で明記し、これと整合するよう、内部試験の難易度を毎年見直している。また、読書記録（読書

語数)は、読書の妨げにならないよう工夫している(評価比率を5~10%に押さえ、読書語数の対数を評価点にする等)。定期試験の合格水準(や、外部試験の合格水準)は、年度始めに配布されるシラバスに明記されているので、高学年になると、諦めて多読授業を履修しなくなる学生も出現する弊害はある。

表 A 2009 年度豊田高専 E 科多読・多聴授業の成績評価(合格)基準と実績

学年	2 年	3 年	4 年	5 年	専 1 年	専 2 年
科目名	電気英語基礎 I	電気英語基礎 II	電気技術英語 I	電気技術英語 II	電気英語コミュ I	電気英語コミュ II
定期試験の英文レベル、長さ	YL1.2, 3,000 語	YL1.8, 4,500 語	YL2.2, 4,500 語	YL2.4, 4,500 語	YL2.8, 6,000 語	YL3.6, 6,000 語
	40%					
小テスト	Reading, Dictation				Reading	
(中間試験)	20%				10%	
外部試験	ACE510 (TOEIC350)	TOEIC370	TOEIC410	TOEIC440	TOEIC450 450 未満は 0 点	TOEIC470
	30%				41%	40%
TOEIC 平均*4	-	445	507	507	606	552
読書語数	10 万語	10 万語	10 万語	10 万語	20 万語	20 万語
	10%				9%	10%
読書量中央値	31 万語 /2 *5	23 万語	26 万語	14 万語	25 万語	6 万語

60%で単位「可」取得。専 1「電気英語コミュ I」は必修科目

定期試験(、中間試験、Reading 小テスト)は、表 A にされた英文レベルと長さの未読英文を用いた Reading の試験である(もちろん、表 A に示されたレベルの本を図書館で借りて、片っ端から読めば既読になることはある)。毎分 100 語で計算された制限時間(6,000 語なら 60 分)内に英文テキストを読み、テキスト回収後に 10 問の質問に答える(日本人学生は、日本語の質問に日本語で答える。記述式)。質問の内 6 問は、あらすじを追えていれば答えられるもの、他の 4 問は物語の展開やプロットに関連した問い等、もう少しよく読めていないと答えられない質問になっている。多読経験のない学生には、YL1.2, 3,000 語レベルの試験でもやさしくないが、複数年度の多読授業経験者には(試験勉強は不要なので)好評。

最終学年(本科 5 年、専攻科 2 年)で、卒業条件を満たした学生の一部が、受講(多読)を途中で止めてしまうことがあり、プログラムとしての課題になっているが、定期試験の英文レベル、長さ、TOEIC 得点等、達成度目標は、おおよそ妥当な水準のようである。

*4 英語圏への留学経験者、外国人留学生を含む履修者の年間自己ベスト得点の平均(専攻科も単年度平均)、3 年と専攻科は全員受験。4, 5 年も成績に参入されるので受講者はほぼ全員受験。

*5 H21 の 2 年生は、「英語表現」でも多読・多聴授業を実施したため、読書語数を 2 科目で折半した

Q9. 多読授業を始めてみたい（導入を検討してみたい）が？

A9. 下記の参考図書を読まれた後、近隣実践校の授業見学をすすめたい。

ただし、多読授業における指導は、従来の英語の授業とは異なる資質を求められる。まずは、指導担当候補者（できるだけ複数の教員がよい）が、自らやさしい英文図書（多読用図書）を 100 万語程度読んでみて、自らの変化を冷静に観察してみるのが良いと思う。その上で、最初は少数の学生を対象に多読指導を行い、各校の実態に合った指導体制を構築しながら、対象者を拡大するのが無理ないであろう。

高専のような小規模校では、英語教育以外の教員、技術・事務職員、同窓生、保護者、地域の方々にも、学習者として参画してもらい、環境整備、雰囲気作りを行うと、より効果的と考える。最後に、英語多読に関し有用な HP、参考図書・雑誌のリストを以下に示す。

100万語多読の関連情報

（ホームページ）

- ・ 日本多読学会 HP (<http://www.seg.co.jp/era/>) 「紀要」、「報告・論文紹介」
- ・ SSS 英語多読研究会 HP (<http://www.seg.co.jp/ssss/>)
「掲示板」、「書評システム」、「多読講演会・セミナー」
- ・ こども式（ナチュラル・アプローチ）HP (<http://tadoku.org/>) 「ブログ」、「掲示板」
- ・ 英語多読者向け図書館・書店マップ Ver.2 (<http://gemini.so.land.to/cgi-bin/rmap/>)
- ・ 豊田高専 E 科 HP
「多読で英語」(http://www.ee.toyota-ct.ac.jp/er_english.php)
- ・ 豊田高専ハイパーメディア研究室多読学習支援システム「tadoku navi」
(<http://orchard.ee.toyota-ct.ac.jp/tadokunavi/>)

（書籍、雑誌）

- ・ 「英語多読・多聴指導マニュアル」高瀬敦子、大修館書店
- ・ 「教室で読む英語 100 万語—多読授業のすすめ」酒井邦秀、神田みなみ、大修館書店
- ・ 「快読 100 万語！ペーパーバックへの道」酒井邦秀、ちくま学芸文庫
- ・ 「ミステリではじめる英語 100 万語」酒井邦秀・佐藤まりあ、コスモピア
- ・ 「大人のための英語多読入門」佐藤まりあ著、酒井邦秀監修、コスモピア
- ・ 「100万語多読入門」古川昭夫・伊藤晶子、コスモピア
- ・ 多聴多読マガジン（vol.1:2006.9月～）、コスモピア